

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成24年9月27日(2012.9.27)

【公開番号】特開2011-37245(P2011-37245A)

【公開日】平成23年2月24日(2011.2.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-008

【出願番号】特願2009-189587(P2009-189587)

【国際特許分類】

B 4 1 M 5/382 (2006.01)

B 4 1 M 5/50 (2006.01)

B 4 1 M 5/52 (2006.01)

【F I】

B 4 1 M 5/26 1 0 1 H

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月10日(2012.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 3】

次に、溶剤の環流を確認後、イソホロンジイソシアネート（表 1 中 I P D I）3 0 部を添加して重合し、ウレタンプレポリマーを合成した。更に、2 5 条件下でエチレンジアミン 2 . 7 5 部、イオン交換水 1 7 0 部をホモジナイザーを用いて攪拌し、これにウレタンプレポリマーを投入した後、鎖延長が完了するまで攪拌した。これを 4 0 、減圧条件下で攪拌しながら脱溶剤及び脱水を行い、ウレタン分散体（3 5 % 固形）を得た。このウレタン分散体 2 9 0 g とイオン交換水 6 0 g を環流冷却器を備えた反応器に仕込んで攪拌し、7 5 まで昇温した。これに P E M A（フェノキシエチルメタクリレート）1 0 0 部と過硫酸カリウム触媒水溶液とイオン交換水 1 0 0 g を 2 時間かけて滴下し、さらに 1 時間攪拌を続けて樹脂組成物 A に用いるラテックスを作製した。なお、樹脂組成物 B ~ V に用いるラテックスも同様にして作製することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 6】

表 1 中、P E M A（フェノキシエチルメタクリレート、化学式 1 に相当）、P E O 2 M A（フェノキシエチレンオキサイド（2 モル）変性メタクリレート、化学式 2 に相当）、2 H E M A（2 - ヒドロキシエチルメタクリレート）、2 E H A（2 - エチルヘキシルアクリレート）、S t（スチレン）、C H M A（シクロヘキシルメタクリレート）、B Z（ベンジルメタクリレート）、M M A（メチルメタクリレート）、A A（アクリル酸）、N P G（ネオペンチルグリコール）、D M P A（ジメチロールプロピオン酸、カルボキシル基含有脂肪族ポリオール）、I P D I（イソホロンジイソシアネート）、H 1 2 M D I（4 , 4 ' - メチレンビスシクロヘキシルジイソシアネート）、P T M G 2 0 0 0（ポリテトラメチレングリコール（M w 2 0 0 0）三菱化学製）、N S 2 4 0 0（1 , 5 - ペンタンジオール + アジピン酸ポリエステル（M w 2 0 0 0）旭電化工業製、脂肪族ポリエステルポリオール）、P 1 0 1 0（1 , 5 - ペンタンジオール + アジピン酸ポリエステル（M

w 1 0 0 0) クラレ製 クラレポリオール、脂肪族ポリエステルポリオール)、T 5 6 5
2 (1 , 6 - ヘキサンジオール系ポリカーボネート (M w 1 0 0 0) 旭化成製 デュラノ
ール、脂肪族ポリカーボネートポリオール)、U E 3 3 2 0 (フタル酸系ポリエステルジ
オール (M w 2 0 0 0) ユニチカ製 エリーテル)、2 2 0 A L (カプロラク톤ジオー
ール (M w 1 8 0 0) ダイセル化学製 プラクセル)、W B 4 0 - 1 0 0 (水分散ポリイソ
シアネート 旭化成製 デュラネート)、D Z 2 2 E (アジリジン基含有化合物 日本触
媒製 ケミタイト)、K 2 0 3 0 E (オキサゾリン基含有ポリマー 日本触媒製 エボク
ロス)、E 0 1 (カルボジイミド基含有ポリマー 日清紡ケミカル製 カルボジライト)
である。